

文化の風が吹くまち ちくしの

文化薫道

問い合わせ先／文化情報発信課(歴史博物館内)

☎(921)8419

―其の十九―

文様が語る古代の世界

五郎山古墳

さまざまなお宝をとる人々、夜空にまたたく星と船。

原田に所在する五郎山古墳は、緑・赤・黒の三色で多彩な文様が描かれた装飾古墳です。今から1500年前に、この地域を治める首長(しゅちよう)の墓としてつくり、昭和24年7月13日に国史跡に指定されま



多彩な文様が描かれた石室

した。全国に約10万基あるといわれる古墳の中でも、文様が描かれている例は約600基しかなく、その中で国史跡は57遺跡のみです。

五郎山古墳の最大の特徴は、人、動物、器物など文様の種類が豊富で、さまざまな物語が想像できることです。一端をご紹介しましょう。

弓をつがえる人は動物を狙っており、引き絞った弦の音が聞こえてきそうです。これは、自らが治める地域の象徴として、首長がイノシシなどを狩って権力を示す生前の姿を示しているようです。そばには、魂とおぼしき印のある建物に向かって手をかざす女性があり、祈りを捧げています。

文様の中でひととき大きな船の中央には、棺と思われる箱があります。星のまたたく夜の海を越えて、死後の世界にこぎ出す情景を描いています。多彩な文様は、これらの構成から首長の生前から葬送に関する一連の



矢をつがえる人物と祈る女性

物語を描いていると想定されます。この壁画には当時の人々の姿や死生観など、さまざまな情報が詰まっており、私たちを古代の世界にいざなってくれます。

1500年前の人々はこのように気持ちでこれらの絵を描いたのでしょうか。この壁画を体験できる施設が古墳に隣接する五郎山古墳館です。全国的にも珍しい実物大の可動式石室模型があり、だれでも中に入って壁画を楽しむことができます。古代人々の息吹を感じたら、実際に石に絵を描いてみませんか。古墳館では、7月15日から装飾古墳アートを開催します。ぜひ、古代の世界へお越しください。

